

(5) 東 海



東海地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

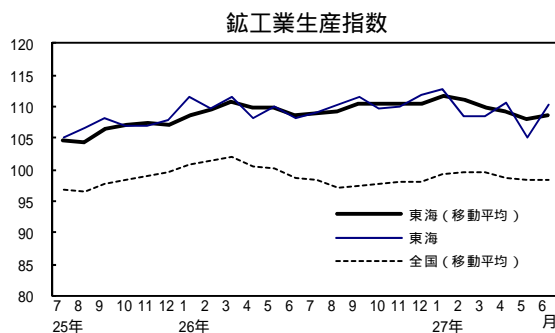
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 5 月)	今回 (平成 27 年 8 月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

4～6月期には、輸送機械は、乗用車、自動車部品等で国内向けが減少したこと等から減少した。はん用・生産用・業務用機械は、金属工作機械は引き続き堅調であったものの、生活関連産業用機械等が減少したことから減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向け液晶等が減少したことから減少した。化学は医薬品等が減少したことにより減少した。プラスチック製品は、プラスチック製フィルム・シート・合成皮革等が増加したことにより増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	36.5	1.9	2.0	0.4	7.7	8.9
はん用・生産用・業務用機械	9.9	4.2	1.7	3.2	2.7	2.2
電子部品・デバイス	9.5	3.9	5.6	2.4	4.9	2.2
化学	6.9	6.4	1.2	4.0	7.4	2.3
プラスチック製品	5.9	1.9	0.6	8.0	15.5	12.4
鉱工業	100.0	0.5	1.2	1.8	4.9	4.8

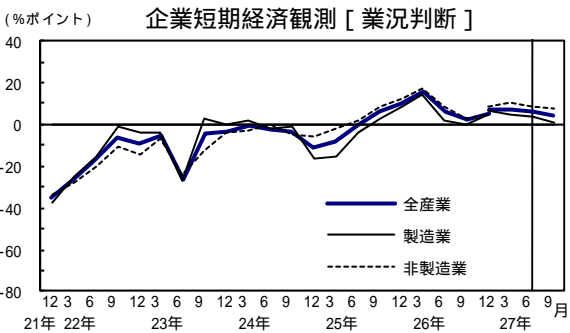
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

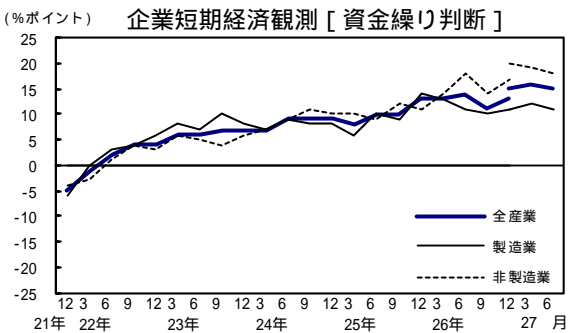
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

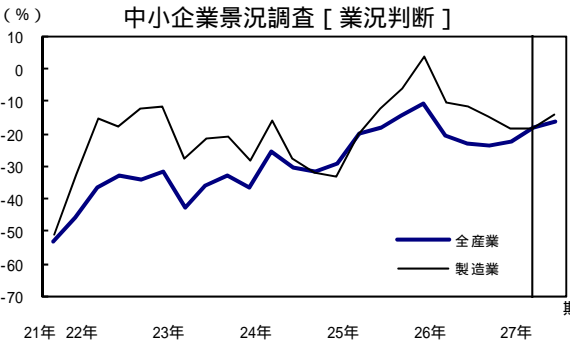
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



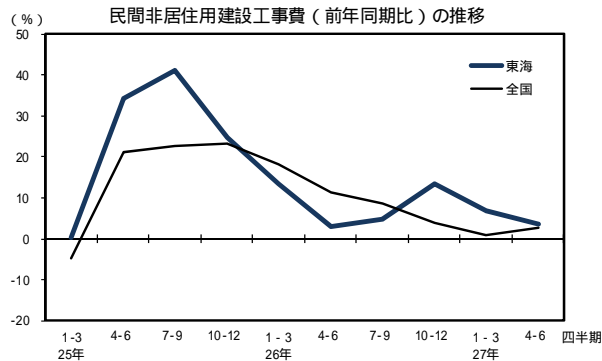
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
「土地、建物共に仕入価格が高騰し、結果的に販売価格が、1戸当たり500万円ほど割高になる。したがって、住宅の購入希望者はいても買えないケースが増加している(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	7.8	18.8
製造業	10.9	18.9
非製造業	4.5	18.7

(備考) 22年度以降は、計画はリース会社対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.1%増、5月は同0.7%減、6月は同1.4%減となった。

大型小売店販売額

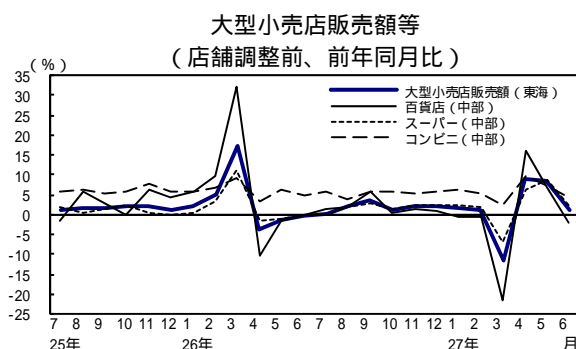
百貨店は、4月は、前年の消費税率引上げ後の販売減の反動に加え、高額商品や春物衣料品に動きがみられたことから前年を上回った。5月は前年の消費税率引上げ後の販売減の反動に加え、高額商品や夏物衣料品に動きがみられたことから前年を上回った。6月は、高額商品に動きがみられたものの、夏物衣料品が振るわなかったことから前年を下回った。

スーパーは、生鮮食品の相場高もあり、飲食料品が堅調であったため、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、50.5となり前月より1.7ポイント上昇した。

「暑い日が続いているため、エアコンや冷蔵庫が売れている (家電量販店)」など「やや良くなっている」とする回答が増加した。



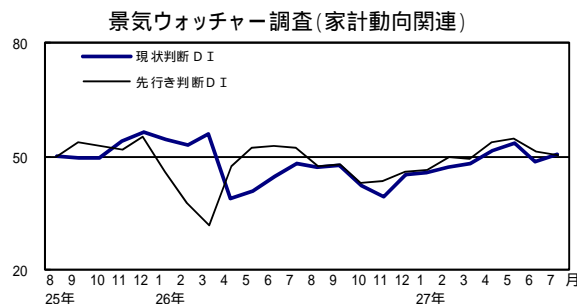
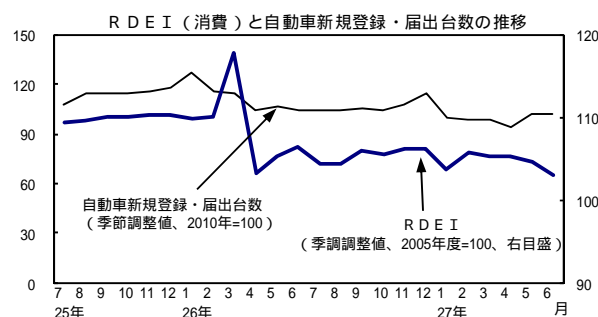
	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.6	0.1	0.7	1.4
大型小売店(*2)	6.0	9.0	8.4	1.1
百貨店(*2)	6.5	16.1	6.8	1.9
スーパー(*2)	5.9	6.5	8.9	2.3
コンビニ(*2)	6.9	9.6	7.1	4.1
乗用車(*3)	5.7	10.0	6.9	1.6
(季節調整値)(*3)	0.2	5.0	7.8	0.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー、コンビニは、中部

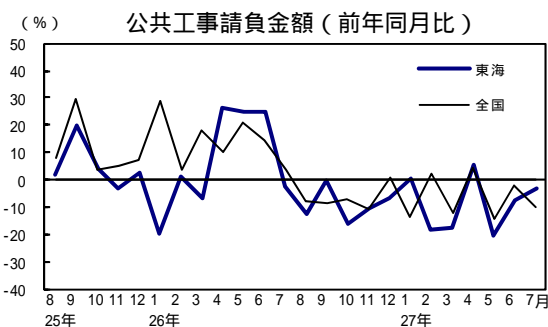
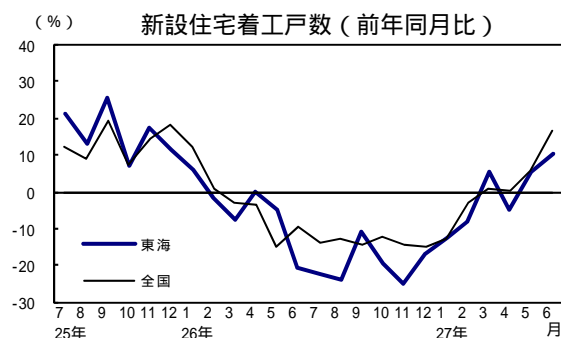
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

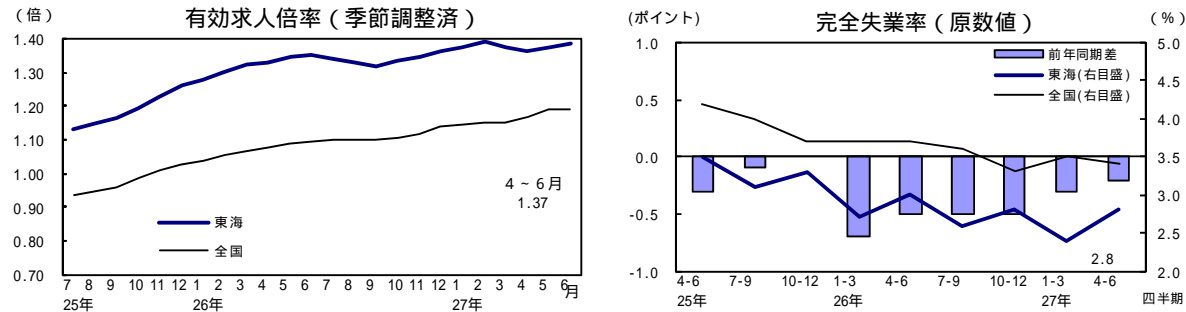
分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。

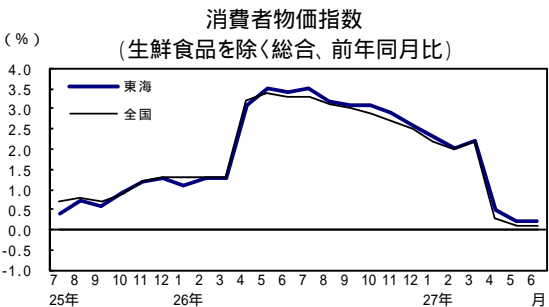


景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]
「求人数等は引き続き高い水準にあるが、企業が採用に至る人材として求めるハードルは、それほど変わらない (民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数	270	273	249	284	86
(前年比)	17.2	20.6	21.2	8.1	9.5
負債総額	481	384	716	501	93
(前年比)	22.0	39.4	57.2	19.3	49.0



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

- <現状>
- ・プレミアム付商品券の発売で、その券を利用する旅行申込が急増し、1日に100万円以上の売上を計上した日もある。ボーナス時期も重なり、客の懐具合には余裕が出てきているようである。旅行業界としては、良い傾向にある (旅行代理店)。
- <先行き>
- ・これから伊勢志摩サミットの話が広がり、実感できる形での観光客増加につながる (一般小売店 [土産])

